

「地域子ども教室推進事業」の成果を生かして

「地域子ども教室推進事業」は平成16年度から3ヵ年計画で、国の「地域教育力再生プラン」の中核的な事業として、安全・安心してスポーツや文化活動など多彩な活動ができる活動拠点（居場所）をつくり、その居場所を軸に、地域の方々に協力いただきながら、子どもたちが様々な体験活動や地域住民との交流活動等を実施していく事業です。

本協議会は、平成16年度の発足以来、「地域教育力再生プラン」の全県的な視野での取組に関する具体的な企画・立案、評価等を行い、未来の栃木を創る心豊かでたくましい子どもたちを社会全体で育む基となる、地域教育力の活性化に関する方策を協議してまいりました。

その中で、本県では、地域子ども教室数も初年度の46教室から、61教室、そして62教室へと教室（「居場所」）数を増やしてきました。また、今年度は、小学校低学年が安全・安心に活動できる場所を設置し、学年毎に異なる下校時間を揃えて集団下校を行う取組である「子ども待機スペース交流活動推進事業」を県内12箇所で実施してまいりました。

「地域子ども教室」をとおして、地域への信頼や地域を身近に感じる子どもが増えてくるとともに、地域の大人にとっても、同じ地域に住む子どもたちとの貴重な交流の場、地域のふれあいを促進する場ともなってきたおり、子どもから大人まで含めた新たな地域の人間関係が形づくられてきました。

この事業の詳しい成果については、本資料「とちぎの子どもを育む地域づくり」の中で、「とちぎの子どもを育む地域づくり」の実践事例や「地域の教育力に関する実態調査」結果として取り上げました。また、これから、地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくりを、地域が主体となって取り組もうとされている方々や、平成19年度から新たにスタートする「放課後子どもプラン」（放課後子ども教室）に係わる方々にとって、参考となる資料となっておりますので、ぜひともご活用下さいますようお願いいたします。

最後に、3年間「地域子ども教室推進事業」の実施に当たりまして、ご協力下さいました関係者の皆様にお礼申し上げますとともに、今後とも一層地域教育力の活性化のためにご支援を賜りますようお願いいたします。

平成19年3月

とちぎ地域教育活性化協議会会長

作新学院大学女子短期大学部教授

加藤 千佐子

「とちぎの子どもを育む地域づくり」発行に寄せて

今日、少子高齢化・情報化・国際化など、社会が急激に変化する中、人間関係の希薄化や子どもたちの社会体験・自然体験の不足などが指摘されております。

また、日本各地で、子どもたちの命が脅かされる事件が多発するなど、子どもたち自身が、厳しい社会環境の中で生活している現状が見られ、その背景として、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。

こうした中、身近な地域に住み、様々な知識や技術を持つなど社会体験・自然体験豊富な大人たちが、子どもたちのために力を結集して、子どもたちが、そして、子どもたちと大人が交流できる安全・安心な居場所づくりをとおして、地域の教育力の向上を図ることが、以前にも増して求められてきております。

本県では、平成13年度から、学校・家庭・地域社会が一体となって、子どもたちに「生きる力」を育み、心豊かな青少年の育成を目指して、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々が行う交流活動、体験活動、学習活動を「ふれあい学習」として、全県的に推進してきました。

その中で、平成14年度から3ヶ年間、地域で子どもを育む体制を整備し、小学校区や公民館区で体験活動や交流活動・学習活動を子どもたちに提供する「家庭と地域の教育力活性化事業」を実施してきました。

また、国においても、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」を中核とした「地域教育力再生プラン」を実施し、また今年度から「子ども待機スペース交流活動推進事業」を新たに加えて、子どもたちの安全な居場所の確保を推進しております。本県においては、「家庭と地域の教育力活性化事業」で整備された実行委員会や各地域での取組が、「地域子ども教室推進事業」へ円滑に継続されるなど、本年度は県内で62教室が実施されてきました。

これらの積極的な取組により、県内各地域で、一層地域の大人たちが力を結集して、地域において、地域が主体となって、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みや、様々な活動が生まれてきています。

本資料集は、「とちぎ地域教育活性化協議会」と協働し、3ヶ年にわたって実践してきた「地域子ども教室推進事業」の活動内容と成果の紹介を軸として、今後も、この火を絶やすことなく、さらに地域で子どもを育む仕組みづくりや活動づくりに活用できる資料として作成しました。平成19年度から開始される「放課後子ども教室」においても、本資料を参考にさせていただきたいと願うものです。

最後に、本資料を作成するにあたり、ご尽力いただきました、とちぎ地域教育活性化協議会会長の加藤千佐子先生、副会長の浅井経子先生、そして、ふれあい学習推進委員会委員長の塚本純先生、副委員長の青木章彦先生をはじめ、各委員の皆様並びに地域子ども教室等、地域で活動されている皆様、アンケート調査にご協力くださった皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成19年3月

とちぎ地域教育活性化協議会事務局長
栃木県教育委員会事務局生涯学習課長
水越 久夫